

被表彰者の略歴及び主な功績

新川 哲也（しんかわ てつや）

略歴	若桜町教育委員会前教育長 (平成28年10月から令和5年3月)
主な功績	<p>○学校教育に関する功績</p> <p>平成28年10月の就任以来、6年5ヶ月に渡り、地域住民の理解を得ながら、学校現場の声にも積極的に耳を傾け、豊富な行政経験を活かし、多くの教育課題の解決に努めた。</p> <p>ICTを活用した学習の推進を図るため、GIGAスクール構想以前より児童用タブレットを導入し、個別最適化された学力向上の基盤づくりを進めた。また、GIGAスクール構想において、校内高速ネットワーク、eラーニング教材の整備を行い、ICT教育の一層の充実を図った。</p> <p>学校内においては、特別支援教育の充実を図るため、学習支援員や、相談室へ心の相談員の配置を行うなど、支援体制を充実させた。</p> <p>学校不適応児童生徒への支援では、学校と連携を図りながら児童生徒が学校復帰を目指す場として、町独自の適応指導教室「来未（くるみ）教室」を設置し、不登校児童生徒学習支援員を配置して支援を行った。</p> <p>読書環境の整備や読書活動の推進に向け、学校図書館に図書指導員を継続して配置した。</p> <p>教育施設、環境整備では、学校内のエアコン整備、給食費・教材費の無償化を実現するなど、ハード面とソフト面の両面から、教育環境整備を進めた。</p>
功績	<p>○社会教育に関する功績</p> <p>「コミュニティ・スクール」の取組を推進し、学校・家庭・地域が学校の強みや弱みを共有し、互いに手を取りながら地域ぐるみで子どもたちを育てる仕組みづくりの土台を築いた。</p> <p>読書活動を通して次代を担う子どもたちの健やかな成長と明るい未来を築いていくため、「第2次若桜町子ども読書活動推進計画」を策定し、ボランティアによる読み聞かせや子ども読書通帳を発行し、自分が借りた図書の履歴が通帳に記載されるようにした。また「羽ばたけわかさっ子」事業として、中学校3年生卒業時に、生徒が選んだ本をプレゼントするなど、児童生徒の図書館利用の促進を図った。</p>
	<p>○文化・スポーツの推進に関する功績</p> <p>町内に残る歴史資料を継承するために、「続編若桜町誌」の編纂事業を進めた。また、若桜宿内のまちなみを後世に引き継ぐために、平成30年に「若桜町伝統的建造物群保存地区保存条例」を策定し、地域住民への説明会を行い、理解と協力を得て、令和3年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されるなど文化財振興に尽力した。</p> <p>コロナ禍においても、最大限の配慮をしながら実施方法を工夫して、成人式や公民館祭、スキー大会等各種事業を継続実施した。</p>
	<p>○人権・同和教育に関する功績</p> <p>町民一人ひとりが人権に対する正しい理解と認識を深め、人権感覚を養い人権尊重の精神を高めるとともに、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題を自らの問題としてとらえ、行動できるよう、町内各集落での小地域学習会を継続し、人権教育の推進を図った。</p> <p>令和4年3月に第4次男女共同参画プランを策定し、SDGsで設定された17のゴールの達成に向けて、人権講座の実施や男性向けの料理教室の実施など、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指した取組を推進した。</p>

長石 彰祐（ながいし あきひろ）

略
歴

智頭町教育委員会前教育長 （平成26年6月から令和5年3月）

主

○学校教育に関する功績

平成26年6月の就任以来、8年9か月に渡り、地域住民の理解を得ながら、学校現場の声にも積極的に耳を傾け、豊富な行政経験を生かし、多くの教育課題の解決に努めた。

学校教育施設の整備では、智頭中学校の改築、小中学校普通教室のエアコン整備といった大規模事業を実施した。また、平成26年度から中学生向けにタブレットの導入を開始し、令和3年度には町内の全小中学生に一人一台端末の導入を完了したほか、インターネット接続環境のない小中学生の家庭向けに家庭ネットワーク整備補助制度を導入するなど、ICT環境の整備を積極的に行った。さらに、老朽化した小学校プールを廃止し、民営温水プールを活用するとともに、インストラクターによる指導も授業に取り入れるなど、時流を捉え、地域資源を生かしながら、求められる教育環境を実現するために尽力した。

学校内においては、早期支援コーディネーターによる子どもの発達支援、スクールソーシャルワーカーによる不登校対策、学校特別支援教育支援員の配置、フリースクール等を利用する児童生徒の通学費補助制度導入など、個別支援にも力を注いだ。

な

保護者負担を減らすために、学校給食費無償化、スクールバスの導入、通学用自転車購入補助など様々な施策を実現した。

中学校においては、町の課題を解決するために町の百人委員会という取組に参画し、生徒が企画提案と事業実施を通して地域探求学習を深める取組を推進した。

功

○次世代教育に関する功績

2園あった保育園を統合して新築し、保育料及び副食費を無償化した。廃止した保育園は放課後児童クラブや「子ども食堂」へ転用するなど、既存施設の有効活用も行った。

住民の声で立ち上がった森のようちえんにも公立保育園と同様に支援を実施し、移住者の増加につなげた。

績

高校生には通学費補助を行ったほか、県外から町内の高校に通う生徒への通学費補助や下宿費の補助など、幅広い支援を実施した。

○社会教育に関する功績

令和4年に「コミュニティ・スクール」を導入し、学校・家庭・地域がめざす子ども像を共有しながら、お互いにパートナーとして地域ぐるみで子どもたちを育てる仕組みの礎を築いた。

図書館事業では、4年間にわたる住民ワークショップを経て、令和2年に図書館を整備したことにより、図書利用以外にも囲碁や、学習、映画上映など多様な利用スタイルが生まれた。新型コロナが猛威を振るう中の竣工であったが、開館前に比べ貸出利用者数が3割増加した。

○文化・スポーツの振興に関する功績

智頭町景観計画策定に合わせ、林業景観保存調査を実施し、保存計画を策定した。その後智頭の林業景観が文化庁から重要文化的景観に選定され、整備活用計画の策定に尽力した。

スポーツではトップアスリート支援事業を導入し、全国大会等に出場する子どもを持つ家庭の経済的負担を軽減した。